

2023 市勢要覧

「人と自然が織りなす しあわせ交流都市 とうみ」



 **とう 東 み 御 市**

～人と自然が織りなす しあわせ交流都市 とうみ～

■東御市の概要

東御市は、長野県の東部に位置し、北は上信越高原国立公園の浅間連山を背にし、南は蓼科、八ヶ岳連峰の雄大な山並み、島崎藤村が詩に詠んだ千曲川と鹿曲川の清流が織りなす豊かな風土と歴史に恵まれています。

市の北部にかかる上信越高原国立公園の湯の丸高原は、レンゲツツジの大群落、コマクサ、アヤマメ、マツムシソウなど、多種類に及ぶ高山植物の宝庫で、フラワートレッキングに最適の花高原として親しまれています。また、高地トレーニング施設としても整備を進めており、既に利用を開始している一部の施設では、スポーツ選手たちが自らの力を高めるために練習に励んでいます。

歴史的には馬の産地として知られ、平安時代の信濃御牧（官牧）十六牧の中でも最も貢馬が多かったと伝えられており、中世には東信地方一帯を支配してきた海野氏をはじめ、望月氏、布下氏、諸沢氏によって統治されてきました。また、日本の道百選に選ばれた北国街道海野宿は江戸時代の面影を残し、現在では観光の要所となっています。

市花 レンゲツツジ

湯の丸高原のレンゲツツジ群落は、市の観光のシンボルともなっており、毎年多くの観光客が訪れます。
レンゲツツジ群落は、昭和31年に国の特別天然記念物に指定されています。



市木 くるみ

明治初めから導入され、大正時代には盛んに栽培されました。東御市は、雨が少なく南傾斜で日当たりのよい地形に恵まれ、栽培に最適な環境です。市内には原種木があり、一般家庭でも古くから見られる身近な木です。



市蝶 オオルリシジミ

名前のおりオスメスともに羽の表面がルリ色の美しい蝶です。近年では絶滅もしくは激減し、現在では、新潟県、長野県のごく限られた地域と熊本県にのみ確実な生息地が知られています。東御市の天然記念物にも指定されています。



市役所の位置（本庁舎）	東経：138度20分 北緯：36度21分 標高：海拔533m
面積	112.37 k m ²
人口／世帯数 （R4.4.1 住民基本台帳）	人口：29,605人 世帯数：12,319世帯

■東御市民憲章

東御市は、烏帽子、蓼科をはじめとした雄大な山並み、千曲の清流が織りなす豊かな風土と長い歴史に育まれた美しいまちです。自然の恵みをうけた郷土は、先人たちの英知とたゆまぬ努力によって築かれました。

わたしたちは、このまちに生きることに喜びと誇りをもち、未来（あした）に輝くまちをつくるため、ここに市民憲章を定めます。

- 1 自然を大切に、環境と調和した美しいまちをつくりまします。
- 1 ともに支えあい、健やかで安心して暮らせるまちをつくりまします。
- 1 思いやりの心を持ち、子どもたちがのびやかに育つまちをつくりまします。
- 1 芸術や伝統に親しみ、文化の薫るまちをつくりまします。
- 1 活力ある産業を育み、若者がつどう豊かなまちをつくりまします。

平成 18 年 10 月 3 日制定

■市章



東御市の頭文字「と」をモチーフに、豊かな自然、人と人の鮮烈な出会いと合併による新市の融合を象徴しています。

橙色の楕円は太陽を、中心の青い弧は千曲川の流れを、そして空色の弧はさわやかな風を表しています。

■友好都市、姉妹都市

友好都市

東京都大田区

平成 4 年に大田区が区民休養施設の建設用地を決定したことがきっかけで、友好都市提携を締結しました。

毎年、9 月に東御市で開催する「巨峰の王国まつり」と、11 月に大田区で開催される「OTAふれあいフェスタ」では、住民同士が相互に参加し交流を深めています。

姉妹都市

アメリカ合衆国 オレゴン州マドラス市

マドラス市は、オレゴン州の中心的都市ポートランド市の南東約 250 km に位置し、人口は約 6,000 人です。

標高約 700m の平坦な農村地帯ですが、郡の中心部であることに加え、幹線道路が交差していることから、小学校 4 校とミドルスクール、高校があり、生徒は合計で 2,700 人に及びます。



▲環境と調和した循環型社会を目指し、市有林の活用を進めています。市有林の木材を保育園の建築用材として活用する取り組みや、企業と連携した森林保全活動を推進しています。

本市の恵み豊かな自然環境を市民共有の財産として次代に継承していくために、市民一人ひとりが自然を愛し、親しみ、守り、育てることに努めるとともに、市民が潤いと豊かさを実感し、ゆとりある生活を送れるよう、農村環境や水辺環境の保全や整備を市民と行政が協力して取り組み、水と緑に包まれた魅力ある生活景観の形成による環境と調和したまちづくりを進めています。

さらに、市民と行政が互いに協力し合って、地球温暖化の防止やごみ排出量の削減、資源物のリサイクル活動を進め、循環型・脱炭素社会の実現を目指しています。

I 豊かな自然と人が共生するまち

○地の利を活かした再生可能エネルギーの活用の推進

・脱炭素社会の構築



一般家庭の建物のスペース等に無償で太陽光発電設備を設置等することにより、再生可能エネルギーの地産地消を推進する「地域電力会社」の設立を支援します。(市役所設置の太陽光発電パネル)

私たち一人ひとりが気候変動対策にしっかり向き合い、本市の豊かな自然環境を守り、未来を生きる世代につなげていくために行動していく必要があることから、「とうみ気候非常事態宣言」をしました。



○ごみの適正処理と減量・資源化の推進

・生ごみリサイクルシステムの適正な運営

II 安全、安心の社会基盤が支える暮らしやすいまち

身近な生活道路や幹線道路網の整備、公共交通の充実、上下水道等の社会基盤施設の整備に努め、住環境の質の向上による快適で住みよいまちづくりを進めています。

また、行政が行う防災・減災対策に加え、市民が主体となった防災活動を推進し、家庭、地域、行政が互いに協力しながら災害に強いまちづくりを進めています。

さらに、地域消防体制の充実や地域防犯活動や交通安全対策を推進するほか、消費生活の相談体制を充実させることで市民の生命や財産を守り、市民が安全に安心して暮らすことのできるまちづくりを進めています。



▲市防災訓練にあわせ、各区では自主防災体制の確認を行っています。



▲防災ラジオ端末を配布し、市民へ行政情報や災害情報等を伝達しています。

○安全・快適な道路環境の整備

- ・市道県東深井線の歩道設置事業の促進
- ・市道金井片羽線の歩道設置事業の促進
- ・道路ストック総点検結果等に基づく舗装・橋梁・道路附属構造物修繕事業の促進

○公共交通の利便性の向上

- ・地域公共交通計画に基づく持続可能な公共交通システムの再編

○下水道事業の経営基盤の充実

- ・下水道施設の統廃合事業の推進

○防災意識の高揚と防災体制の充実

- ・防災重点農業用ため池の耐震化及び農業用施設の長寿命化の促進



▲児童・生徒が安全に通行できるよう、地下道へ続く歩道を設置します。(市道金井片羽線)



▲地域公共交通として利用されている新しい車両になったデマンドバス

Ⅲ

子供も大人も輝き、 人と文化を育むまち

安心して子どもを産み育てることができ、環境を整えるとともに、子どもたちが健やかに成長できるよう、子育て家庭を支援する環境づくりを進めています。学校教育においては児童生徒の能力と個性を引き出し、児童生徒自らが生を切り開く力を備えることができるよう、質の高い教育環境を整備するほか、学校・家庭・地域が連携することにより、まち全体で次代を担う人材の育成に努めています。

また、市民がいつまでも充実感や誇りをもつて暮らせるよう、生涯学習機能を強化するとともに、郷土の多彩な歴史的資源や文化財の保全・活用、郷土の伝統文化の継承等を通じた文化芸術及びスポーツの持つ、文化力あふれるまちづくりを進めています。



▲子育て支援センターでは、子育てに関する相談体制を整えているほか、様々なイベントを開催しています。

○子育て家庭への細やかな支援の充実

- ・子どもサポートセンター機能の強化による、子どもの生きる力を育む「子育て・子育て」支援の充実

○安全・安心な子どもの居場所づくりと教育環境の整備

- ・滋野児童館建設
- ・子どもと家庭を支える「子ども第三の居場所」の建設

○豊かな心と健やかな身体を育む教育の推進

- ・不登校対策及び特別支援教育の充実

○確かな学力と学びを考える力を育む教育の推進

- ・学力・体力の向上対策及び学校教育におけるICTの活用の推進

○人づくり、地域づくりにつながる生涯学習の推進

- ・家庭、地域、学校及び公共図書館が連携し読書に親しむ機会の提供と読書活動の推進
- ・公民館活動の情報発信の充実と子どもたちや地域ニーズに即した生涯学習、公民館活動の推進

○「する、みる、ささえる」スポーツ活動の推進

- ・総合型地域スポーツクラブ活動助成事業



▲東部子育てサポートセンターで遊ぶ子どもたち。同建物内にある子どもサポートセンターでは、子どもの成長や発達のサポート事業に取り組みます。



▲総合型地域スポーツクラブ「サニー・とうみ」でのカヌー体験

IV 共に支えあい、みんなが 元気に暮らせるまち

子どもから高齢者まで、市民一人ひとりの健康に対する意識を向上させるため、市民主体の健康増進活動を促進するとともに、すべての市民が生涯にわたっていきいきと健康に暮らすことができるよう健康づくりを推進しています。

また、安心して医療が受けられること、高齢者や障がい者（児）が生きがいを持って元気に暮らせることなど、子どもから高齢者まで誰もが健康で安心して暮らせるよう、保健・医療・福祉の充実に取り組んでいます。

さらに、市民一人ひとりの絆による心のかよいかいあふれあい、助けあいを基本とした地域での助けあいのしくみを創り、みんなで支え合う福祉のまちづくりを進めています。



▲東御市が運営する医療機関は、「東御市民病院」、「みまき温泉診療所」、「助産所とうみ」があり、安心して医療が受けられる体制を整備しています。

○ひとり親・生活保護・生活困窮世帯の自立支援と生活の安定

- ・妊娠出産包括支援の充実
- ・生活習慣病予防による健康づくりの推進

○ひとり親・生活保護・生活困窮世帯の自立支援と生活の安定

- ・生活困窮者やひきこもりなどに対する重層的な相談体制の充実

○高齢者が活躍するまちづくりの推進

- ・高齢者福祉拠点の整備

○介護予防（フレイル対策）の推進

- ・信州ACEプロジェクトの実践による高齢者のフレイル対策の総合的な推進

○地域包括ケアシステムの確立

- ・在宅医療・介護の連携強化
- ・地域の支えあい体制づくりの推進



▲高齢者福祉拠点の整備では、年齢や性別等に関わらずすべての人が楽しめるスポーツ「ボッチャ」のコートが常設され、多世代が交流できる場所とします。



▲医療・介護の相談窓口の様子

V 地域の魅力を活かし、 活力とにぎわいを生むまち

本市の恵まれた立地条件と地域特性を活かし、農業では農産物の高付加価値化の推進、優良農地の保全、農業基盤の整備を図り、営農意欲の高い農家を中核として農業の維持発展を図っています。

また、商工業では雇用吸収力の高い企業の誘致や新たな産業機能の誘導を図り雇用の場の確保にとめるとともに、既存企業の活力向上を促進し、市内勤労者の雇用の安定を図っています。

さらに、特色ある農産物と観光産業との連携強化を図ることなどにより、人を誘い「住んでみたい」「住んで良かった」と実感できる市づくりを進めています。



▲市の主要観光地である湯の丸高原には、高地トレーニング施設「GMO アスリートパーク湯の丸」が完成し、400mトラックや8レーンの50m屋内プールに多くの有名アスリートが合宿のため訪れています。

○東御ブランドの確立と特産品の振興

- ・ワイン用ぶどう苗木の安定供給と品質向上のための取組み
- ・御堂地区ワイン振興施設整備事業の推進

○農地流動化の促進及び耕作放棄地の再生

- ・実質化された人・農地プランに基づくモデル地区における検討強化と、市内全域への取組の拡大

○U・I ターン移住者の誘導による定住の促進

- ・空き家情報収集・管理・利活用
- ・シティプロモーションの推進による地域ブランド力の向上

○地域資源を活用した体験型、滞在型観光の推進

- ・東御市版体験メニューの整備と実践



▲御堂地区のヴィンヤードの全景。非農用地に祢津地区のワイン振興の新たな拠点となるワイン振興施設（地域産物販売促進施設）を整備します。



▲移住定住促進のため、東御での暮らしを具体的にイメージできるよう、お試して移住体験ができる施設が整備されました。

VI 市民と共に歩む 参画と協働のまち

市民と行政が地域づくりの想いを共有して信頼関係を築き、市民や地域、事業者などの団体と行政が「自助・共助・公助」の互いの役割を果たしていく協働のまちづくりを進めています。

また、市政情報を積極的に提供し、市民と行政が情報を共有する開かれた市政を推進し、まちづくりへの積極的な市民参加を促進しています。

さらに、行政組織のスリム化や広域行政の推進、施策・事業の効率化及び財政力の強化を図るなど、自主・自立の持続可能な行財政運営を進めています。



▲児童手当の請求や保育施設等の利用申し込み、要介護・要支援認定の申請及び第一体育館など市内体育施設の利用予約などがスマートフォンから行なえるよう、市民の利便性向上に向けた、行政手続きのデジタル化に係る環境整備を行うなど、自治体 DXの推進を図ります。



小学校区単位の地域づくりを進めています。
「田中地区地域づくりの会」、「しげの里づくりの会」、「柘津地域づくりの会」、「和地域づくりの会」、「御牧ふれあいの郷づくり協議会」が発足し、地域の皆さんが地域の課題解決や活性化に向けた取り組みを進めています。

←通学合宿の様子（しげの里づくりの会）

○協働のまちづくりの推進と担い手の育成

- ・地域づくり協議会等の市民活動団体への人的、財政的支援の強化

○持続可能な財政運営の推進

- ・デジタル技術の活用による住民の利便性向上と行政運営の効率化への取り組み



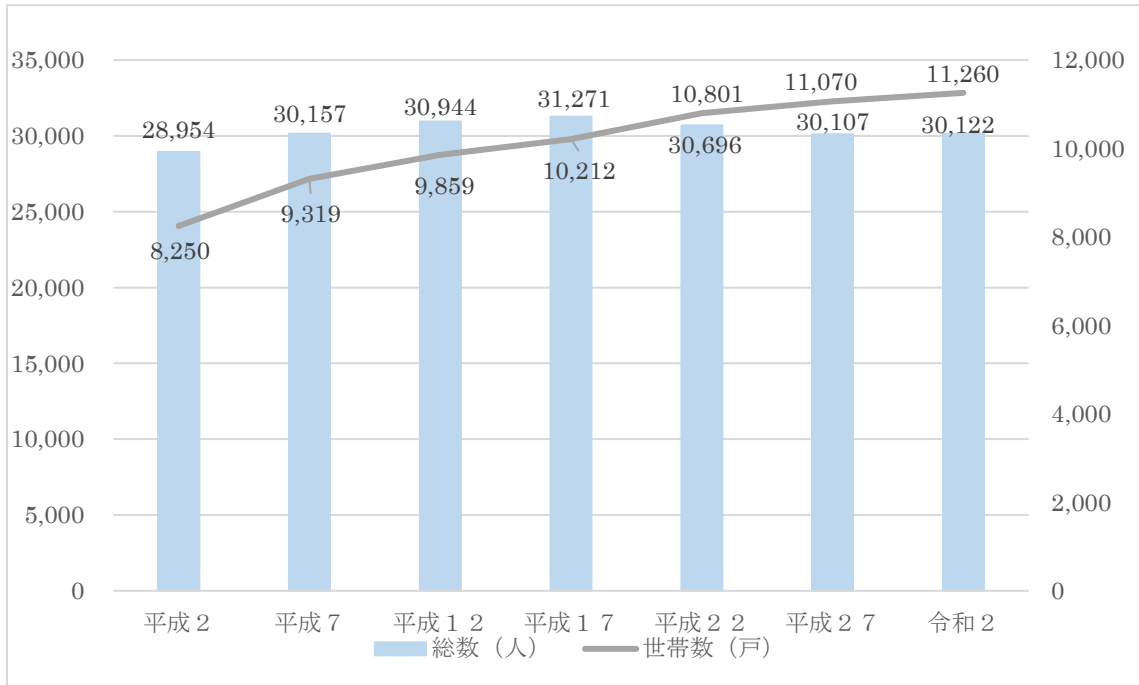
▲市役所1階窓口キャッシュレス決済レジを導入し、多様化する支払い方法のニーズに対応します。
(キャッシュレス決済レジのイメージ)

■東御市の歩み

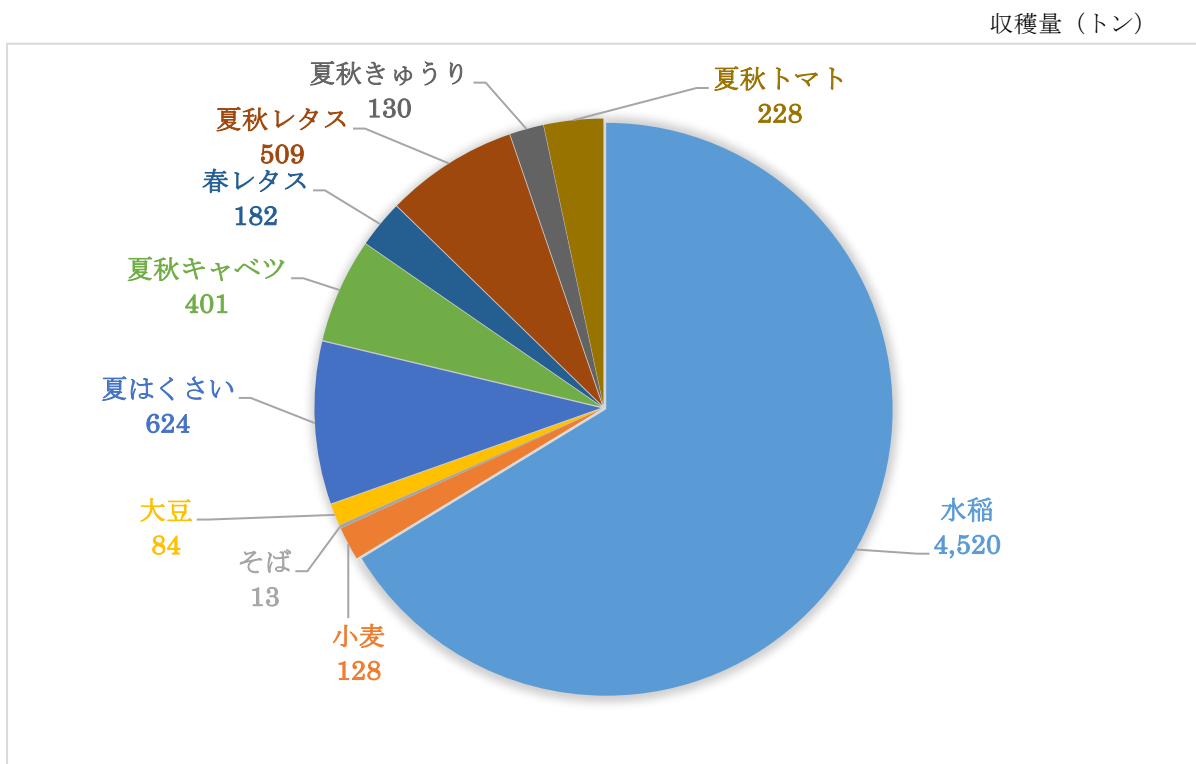
- 平成 16 年 ○旧東部町と旧北御牧村が合併し東御市が誕生（4月1日）
○東京都大田区と友好都市提携協定、災害時相互応援協定締結
- 平成 17 年 ○米・オレゴン州マドラス市と姉妹都市協定締結
○東御市農産物加工施設完成
○第1回東御市民まつり開催
- 平成 18 年 ○定時定路線バス、デマンド交通「とうみレッツ号」運行開始
○東御の日、市民憲章・市花・市木・市蝶を制定
○丸山晚霞記念館開館
- 平成 19 年 ○都市計画道路田中牧家線街路工事竣工
- 平成 20 年 ○「とうみ Sun ライズ ワイン・リキュール特区」に認定
- 平成 21 年 ○田中駅南口整備事業竣工
- 平成 22 年 ○助産所とうみ開所
○エフエムとうみ開局
- 平成 23 年 ○秋田県美郷町と災害時相互応援協定締結
- 平成 24 年 ○市役所新庁舎完成、新図書館開館
- 平成 25 年 ○東部子育て支援センター開所
- 平成 26 年 ○中央公民館増改築工事竣工
○市制施行 10 周年
○海野宿滞在型交流施設「うんのわ」オープン
- 平成 27 年 ○市道田中・西海野線「海野バイパス」全線開通
○「千曲川ワインバレー（東地区）特区」認定
- 平成 28 年 ○明神館リニューアルオープン
○東御市民まつりが「雷電まつり」へ改称して初開催
- 平成 29 年 ○湯の丸高原スポーツ交流施設竣工
- 平成 30 年 ○湯の丸高原スポーツ交流施設一部供用開始
○住民票等コンビニ交付サービス開始
○生ごみリサイクル施設竣工
○北御牧庁舎に市民交流サロン・東御市文書館開設
- 平成 31 年 ○ワイン&ビアミュージアム竣工
- (令和元年) ○台風 19 号の影響により市内に甚大な被害
○GMOアスリーツパーク湯の丸屋内プール竣工
- 令和 2 年 ○GMOアスリーツパーク湯の丸屋内プールが J O C 認定競技別強化センターに
○台風 19 号災害により通行止めだった田中橋が復旧
- 令和 3 年 ○シティプロモーションロゴマーク決定
○東御市ふるさと P R 大使に丸山智己さん就任
- 令和 4 年 ○子どもサポートセンター開設
○総合型地域スポーツクラブ S a n y T O M I 活動スタート
○湯の丸ヒルクライム初開催

■統計資料

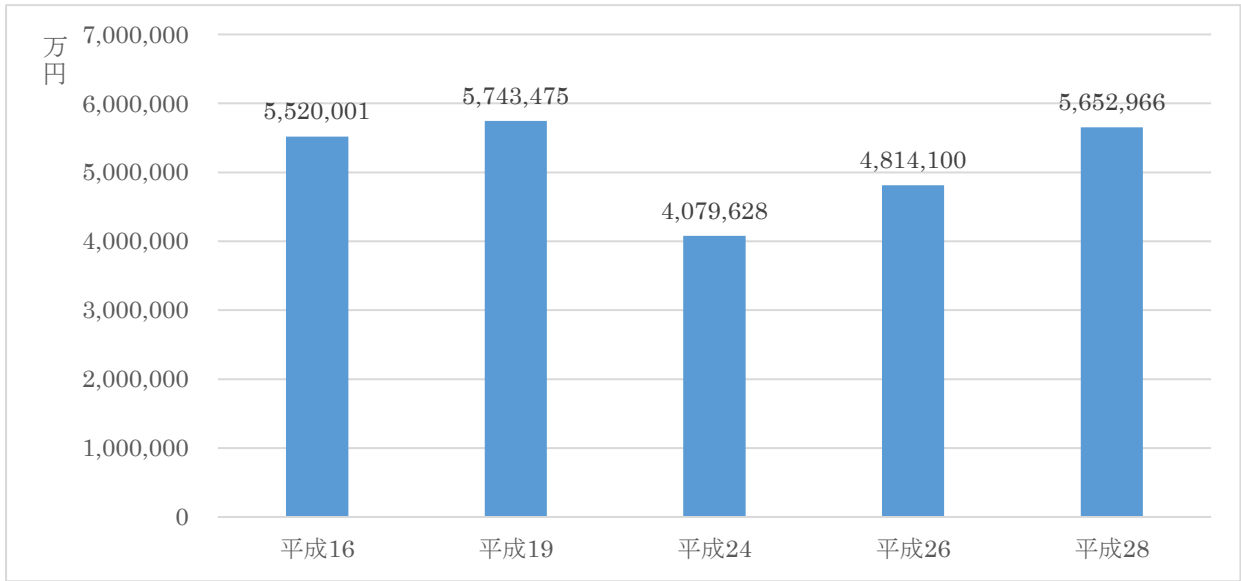
人口と世帯数の推移（国勢調査）



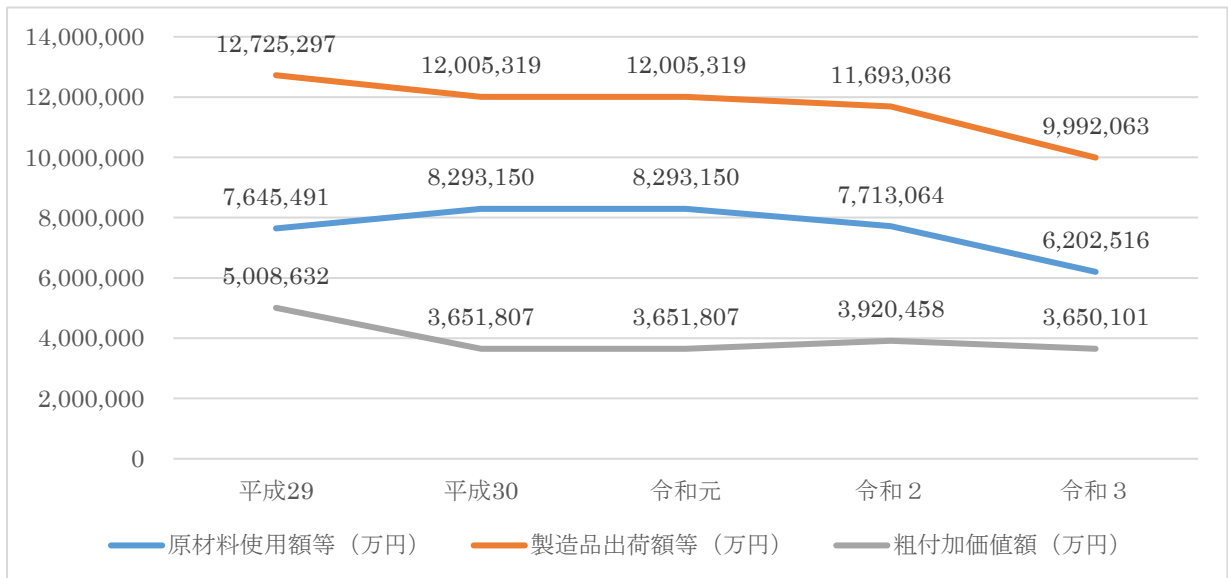
主要農作物収穫量（資料：R2 関東農政局統計部統計企画課「農林水産統計年報・統計資料」より）



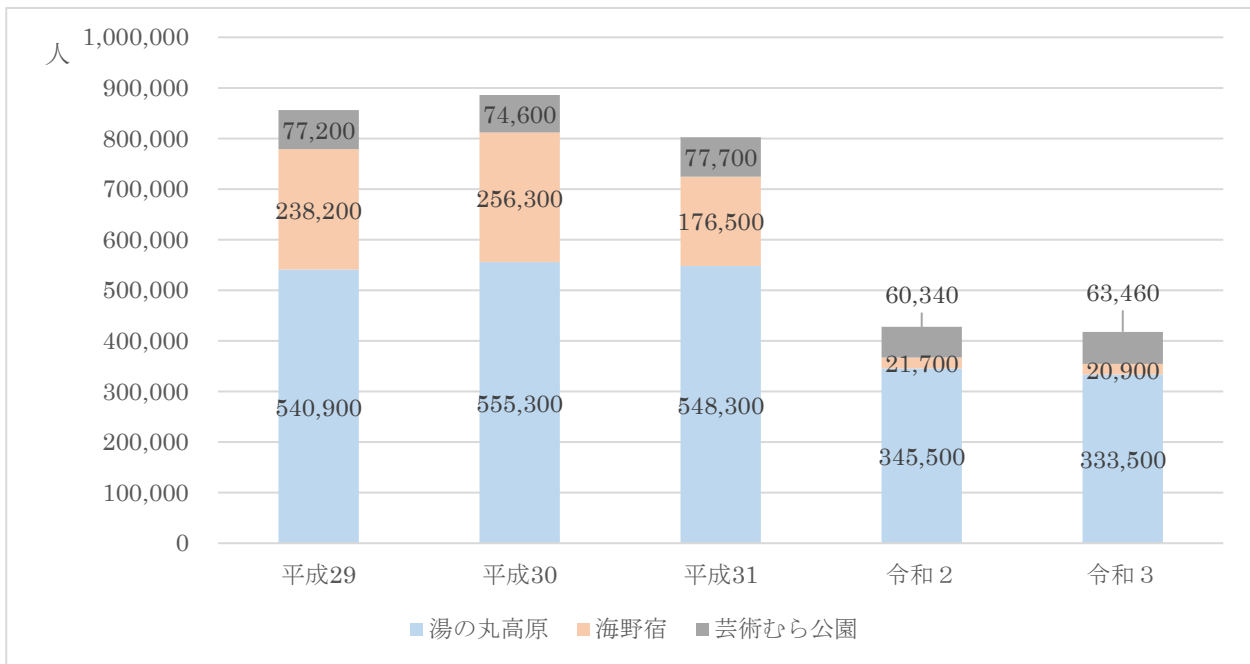
年間商品販売額（資料：商業統計調査）



工業製品出荷額等（資料：工業統計調査）



観光地来訪者の状況（資料：東御市の統計）



財政状況（令和3年度決算）

【一般会計、特別会計】

単位：万円

会計名	収入	支出
一般会計	187億5,046	177億8,604
国民健康保険	32億8,701	32億3,320
介護保険	28億9,961	28億7,490
地域改善地区住宅 改修資金等貸付事業	580	577
後期高齢者医療	3億6,829	3億5,420
湯の丸高原 屋内運動施設事業	2億5,626	2億5,244

【公営企業会計】

単位：万円

会計名		歳入（収入）	歳出（支出）
水道事業	収益的	6億4,319	5億1,854
	資本的	7,823	3億9,250
下水道事業	収益的	13億2,108	11億8,923
	資本的	5億9,962	10億7,965
病院事業	収益的	20億857	19億3,055
	資本的	1億5,138	2億6,940

- ・市債残高 274億9,966万円（一般・特別・企業会計）
- ・基金残高 54億4,816万円（一般・特別会計）
- ・実質公債費比率 8.4%
- ・将来負担比率 40.9%

東御市合併の経過

